

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

カジノあかん! 夢洲あぶない! 10.22市民集会に1000人参加

10月22日、「日本のどこにもカジノはつくらせない」と「カジノあかん! 夢洲(ゆめしま)あぶない!」10・22市民集会が大阪市内でおこなわれ、会場を埋めつくす約1000人の参加があり、大障教からは6分会6人が参加しました。集会後、市内をパレードしました。

カジノ反対へむけて市民の力を再結集!

開会あいさつでは、よびかけ人の一人である、元大阪市長の平松邦夫さん(大阪を知り・考える市民の会)が、「今の大阪は、数さえあればなんでもできる風潮がある。選挙で多数を占めることが民意で



会場は1000人の参加で埋めつくされました

「夢洲の観光開発は危険でムダ」と題して講演しました。田結庄さんは、津波や地盤沈下、液状化など夢洲の5つの危険について解説し、「埋め立て地である夢洲について、大阪府は広く液状化が生じると報告しているが、大阪府は液状化しないと説明している」「夢洲の地盤沈下が何メートルで止まるかがわからない。地震がくるたびに護岸をかさ上げしなくてはならなくなる」と警鐘を鳴らしました。

カジノ・ギャンブルの危うさが浮き彫りに!

リレートークでは、10人が発言しました。発言では、ギャンブル被害にあった当事者は「パチンコもギャンブル、ギャンブルはよくない。国はカジノでさらに被害者を生み出すのか」、医学生は「ギャンブル依存症は本人にとどまらず家族社会の問題。社会全体が自分の問題としてとらえることが必要」、西澤さん(大阪カジノに反対する市民の会代表)は「大阪府・市が昨年高校3年生に配布したリーフレットには『ギャンブルは、生活に問題が生じないよう金額と時間の限度を決めて、その範囲内で楽しむ娯楽です』と書かれてある。ギャンブル依存症予防のリーフレットであれば『ギャンブルには近づかない方がいい』と書くべきではないか」、松永さん(大阪母親連絡会委員長)は「維新の好き



「カジノで大阪こわさんといて!」と元気にパレードしました!

なようにはさせない。大阪府を守り、カジノに反対しましょう」と訴えました。その後も、議員や各地域から連帯のあいさつが続きました。外国からのカジノ誘致を阻止した台湾からは「台湾では誘致を阻止することができた、大阪で阻止できないはずがない。大阪のみなさんを強く強く応援します!」とビデオメッセージで励ましました。最後に、藤永のぶよさん(あかん!カジノ女性アピール事務局)より、カジノを許さないたたかいを大きくするために、地域で『学習会』や『つどい』を開いていきましょう、「署名・宣伝にとりくみましょう」と行動のよびかけがありました。

集会のフィナーレは、コールに合わせて参加者一斉に「カジノあかん! 夢洲あぶない」のプラカードを掲げました。

集会後は、大阪市内をパレードし、「カジノはいらない!」「カジノで大阪こわさんといて!」「ありえへん、カジノで経済活性化!」など、大阪らしいアピールで道行く人に訴えました。大障教の参加者は、扇町公園まで元気よく歩きました。



連休中の11月3日は文化の日。「自由と平和を愛し、文化をすすめることを主旨としている。読書・芸術・スポーツ・音楽など、自由で平和があるからこそ自分の好きな文化に親しめる。今の憲法がそれを土台にしていることから、日本国憲法が公布された11月3日が祝日となった。公布から73年、「平和」を願う市民による憲法改正反対集会が今年も日本各地で開催された。

憲法をめぐる情勢では、10月18日、和歌山市で自民党の改憲集会が開かれた。二階俊博幹事長が「日本全国にこのような(改憲)集会はずーっと行われていく」と述べ、安倍首相は、二階氏の「強い決意を称賛し、この県民集会が嚆矢(こうし)―最初の矢」となり、全国で集会が開催されることを期待する」とビデオメッセージを寄せている。安倍政権は改憲世論づくりに乗り出しており、9条改憲にむけて一層躍起になっている。

3日の集会前、小学1年生になった息子と初めて「平和」について話をしてみた。息「パパ、『せんそう』って何?」筆「国と国や、大人と大人がひどいケンカをするんや」息「なんでケンカするん?」筆「はるちゃん、ケンカせえへんのか?」息「せえへんで。だって、友だちみんな大すきやから、仲良しやもん」筆「そうか、仲良しなんやな。みんなにこにこやったら、それが「へいわ」ってことやな」

簡単なことなのに、これが難しい。息子のまっすぐな言葉が、「平和」への第一歩に思えた。「みんなが愛しあい、大事にしあう社会」で、大きくなった息子が生きていけることを強く願う、集会に参加した。

女性部・青年部共催 「子育てパパママ応援企画」

「まるたせんせのおたのしみショー」開催!

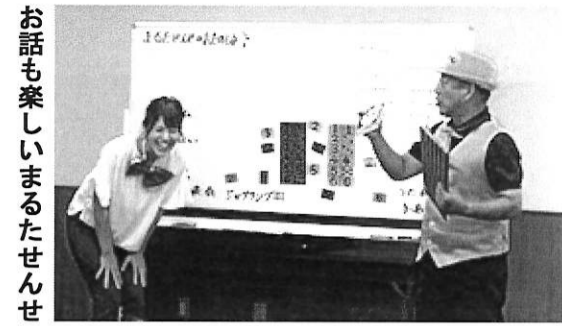
9月7日、女性部と青年部の共催で「子育てパパママ応援企画」と題して、講師にまるたせんせ(元堺市立支援学校教員)をお招きして学習会を開催しました。大人と子どもも合わせて26人が参加し、たくさんの方の「うたあそび」や「ゲーム」、「マジック」などをみんなで大いに楽しみました。



学習会では、「まるたせんせのおたのしみショー」と題して繰り返し広げられるパフォーマンスに、大人も子どもも夢中になりました。初めはかたかった子どもたちの表情も次第にほぐれ、自由に道具に触れて楽しむ姿がたくさん見られました。最初に子どもたちの心をほぐした手遊びうたでは、まるた

せんせのギターに合わせて「♪もつと美味しいものは？」とリズムミカルに投げかけられる質問に合わせて、それぞれに思う美味しい食べ物を選びました。まるたせんせからは、「この答えには正解や不正解はありません」「『美味しいもの』の代わりに『大きなもの』など、学習によって変えていきましよう」と、子どもたちの自由な発想を呼び起こす大切なポイントを教えていただきました。

披露されました。また、マジックでは、たくさんのお道具が使われていましたが、その作り方や手軽に手に入れられることなども含めて、現場で実践できるように工夫のポイントもご紹介していただきました。



触れ合い手遊びでは、まるたせんせの歌声に合わせて手の平や指先がトントンと体の上を移動します。肢体不自由支援学校はもちろん、知的障害支援学校でも、ちよつとした時間を使って子どもたちと楽しい空間を共有できる手立てがたくさ

ゲームでは、子どもの能力が結果に影響することなく、参加した誰もが楽しんで、チームに貢献できる喜びを感じられるように工夫されています。最後に読んでくださった紙芝居も、ただ読み聞かせるだけではなく、呼びかけ、紙芝居に入り込めるようにと、聞き

手の反応を引き出す手立てがいっぱいでした。まるたせんせは、両手の絵が描かれた紙芝居を通して、「選択すること」を伝えてくださいました。それは人生に必要な力で、決して大人が決めただけで生きてはいけなく、私たちが子どもたちに伝えるべき大切なことだとお話くださいました。今年もまるたせんせの楽しい時間に、驚きや笑顔で

(青年部 樋口 真弓)

原水爆禁止2019年世界大会 感想その4

東大阪支援学校分会 中村吉男

初めての世界大会への参加に対して、改めて原水爆をこの地球上から廃絶しなければならないことを強く感じました。2019年、中距離核戦力全廃条約が失効になるなど不安定な国際情勢の中で世界大会の存在はとても重要で、ここに参加している一人一人の平和に対する熱量、原水爆禁止に対する熱量の強さを強く感じることができました。平和の大切さ、尊さを口にするのは容易ですが、この考えをどのように伝え、考えてもらえるかについては更なる努力の必要性も感じました。自らが現地に行き、自分の眼で見て、空気感や匂いなど、様々な感覚でものごとを捉えることで、初めて自分の考えになるのではないかと思います。

2日目の分科会では、佐世保基地行動に参加しました。日本の海上自衛隊とアメリカ軍の管理する佐世保湾、船上の説明の中で、「一般の漁船の入港を制限している非常に静かな湾内となっています」という説明に、「その通りだな」と率直に思いました。静かであることは、今、現実の中で何が起きていて、何が起ころうとしているのかということ私たちが知らないことにもつながるのではないかと不安を感じました。アジアにおける拠点であることは有事の際の最前線にもなるということ、このことを私たち自身が知らないことが、状況を更に深刻なものにしてしまうのではないかとも思いました。

3日間、世界大会に参加できたことは、大変有意義で、これからの世界の変化に対しても更に眼を向け、考えていくことの一つのきっかけになりました。これからも多くの現実に触れ、平和について考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

第19回 全国障害児学級&学校 学習交流集会 in 兵庫

日程：1月11日(土)～13日(月)

11日：全体会(神戸芸術センター) 13:00～16:30

養護学校義務制40年企画 三木裕和さん(鳥取大学)

記念講演「障害児教育の魅力を改めて考える

～発達理解の視点から～

講師：赤木和重さん(神戸大学)